

推進校別中間報告書

1 推進校の概要

学校名	所在地	電話番号	生徒数	備考
みはらしりつだいさんちゅうがっこう 三原市立第三中学校	広島県三原市宮沖3丁目15番2号	0848-62-5665	475人	

2 研究課題

体験活動等を生かした多様な取組の工夫による道德教育の充実

3 研究主題とその設定理由

(1) 研究主題

ひとりひとりの豊かな心を培い，実践力を育てる道德教育

～学校教育の全領域における道德教育の充実と積極的生徒指導の取組をとおして～

(2) 主題設定の理由

本校は、学校教育目標「豊かな心と社会性を備え、たくましく生き抜く生徒の育成」を達成するため、一昨年度より、研究主題を「ひとりひとりの豊かな心を培い、実践力を育てる道德教育」とし、道德教育を基底に据えた教育実践を行っている。

また、今年度は「学校教育の全領域における道德教育の充実と積極的生徒指導の取組をとおして」を副題に加えた。

これは、昨年度までの課題の一つであった不登校生徒への取組みと問題行動の更なる減少をめざして、心の教育である道德教育を学校の教育活動全体をとおして行うとともに、「積極的生徒指導」の理論と手法をもって生徒に接するなかで、生徒理解を進め、共感的人間関係づくりを図り、不登校の未然防止と不登校生徒の学校復帰をめざした指導と支援を深め、そして、問題行動の未然防止に向け取組もうとするものである。

この2年間、道德教育を行ってきた本校生徒の諸行動を見ての課題として、道德の時間で学んだことを生活の中に生かす実践力が不足していることが生徒の実態調査等で明らかとなった。そのためには、体験活動を生かした道德教育を学校教育の全体で取組み、指導法の工夫・改善をしていくことが必要であると考えた。

そこで、体験活動の前後で意図的に「道德の時間」を行うことにより、体験活動に対する意欲・意識づけを行ったり、体験活動で揺さぶられた道德性をもとに道德的価値の自覚を深めたりする道德教育を学校全体で計画的に行うことで、生徒一人一人の豊かな心が培われ、道德的実践力が育つと考え、本研究主題を設定した。

(3) 研究の仮説

ねらいを明確にした体験学習をとおして生徒の道德性を育み、道德の時間に生徒の「心に響く」授業をおこなえば（道德教育を充実させれば）、

生徒の内面に根ざした道德性が補充・深化・統合され、道德的価値の自覚が深まり、道德的実践力が高まるであろう。

4 第1年度の研究の特色及び概要

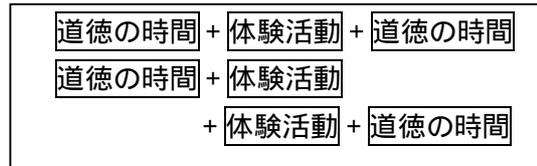
(1) 基本的な考え方

近年、道徳教育の多様な取組の中で、道徳の時間と教科・領域との関連を図る総合単元的な道徳学習が広く行われている。

そこで、本校も道徳の時間を総合単元的に捉えられるところは捉え、他の教科・領域と関連付けられるところは関連付けながら、道徳の時間を工夫することにした。

指定を受けた文部科学省の委嘱事業「平成16・17年度児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」では、特に「体験活動を生かした道徳教育の充実」が本校の研究テーマであったので、「体験活動」との効果的な連動について考えていった。

本校では、全学年で福祉体験を取り入れ、さらに、1年生で自然体験、2年生で職場体験、3年生で進路体験という体験活動を取り入れている。こうした体験活動に有機的、効果的に取組めるよう、右の図に示したように活動の前、または後に道徳の時間を実施している。



(2) 研究目標とそれに対する具体的な「手だて」と「評価項目」

研究目標「体験活動を生かした心に響く道徳教育の充実を図る」

(手だて)ア 体験活動の計画的・系統的な充実を図り、実施する。

- ・全学年...福祉体験学習、地域ボランティア学習(地域清掃など)
- ・1学年...自然体験学習・2学年...職場体験学習・3学年...進路体験学習

イ 体験活動が有機的、効果的に取組むことができるように活動前後に道徳の時間を計画的に取り入れる。

(評価項目) 年間計画に基づいて計画的に道徳教育ができたか。

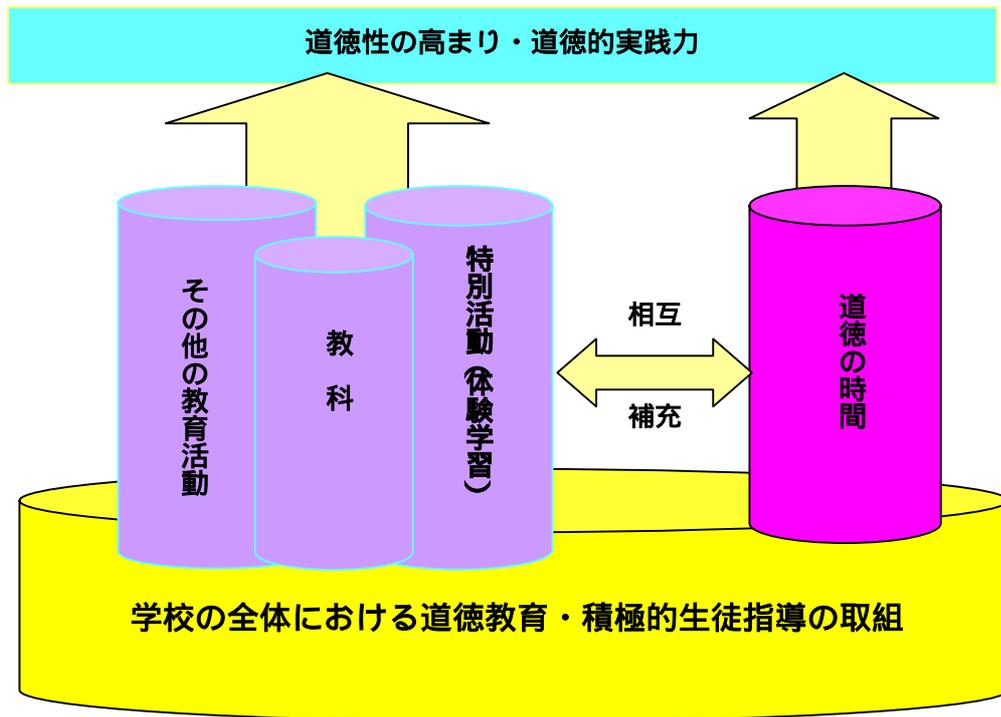
生徒が自己存在感をもつことができたか。

生徒一人ひとりの活躍の場が設定されたか。

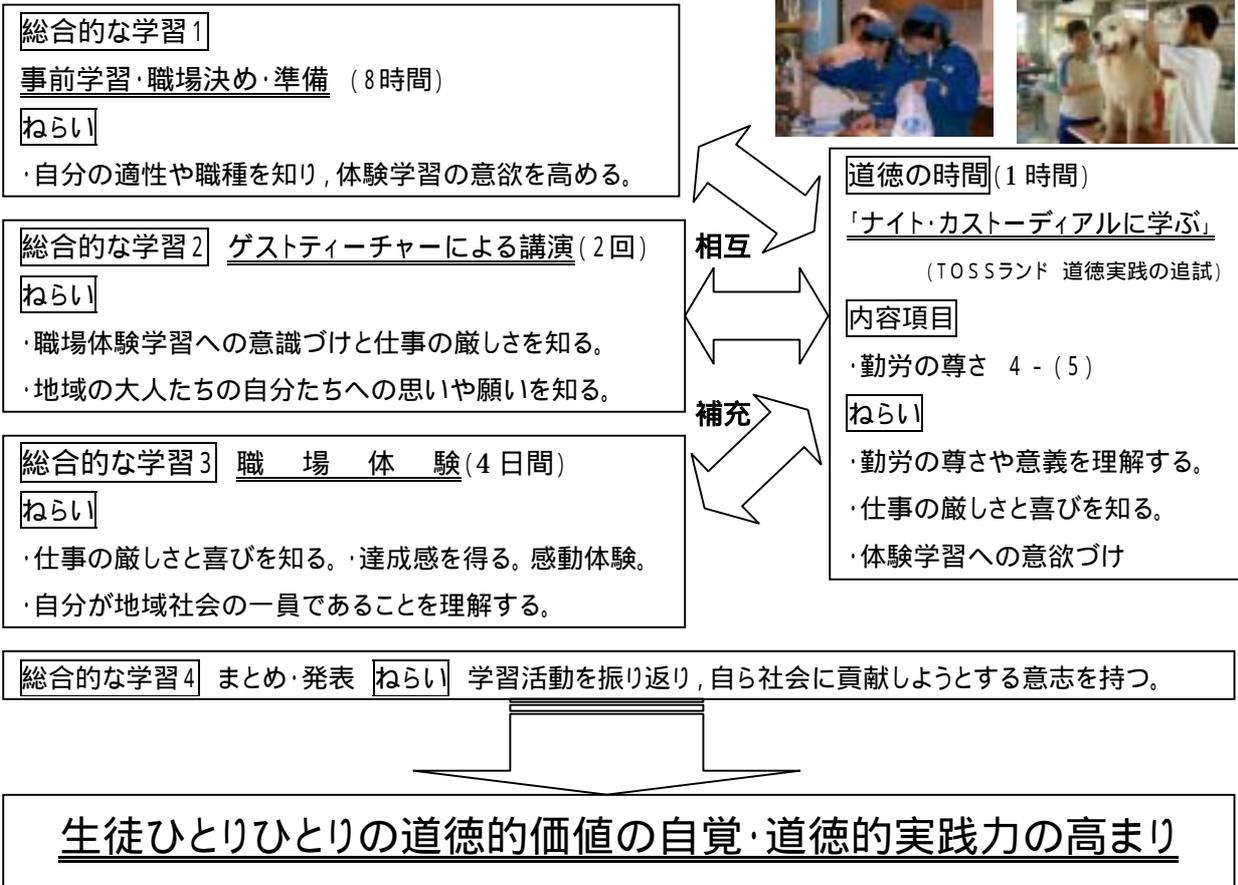
道徳の時間と連動する活動になったか。



(3) 研究構想図



(4) 具体的な取組(第2学年実践例)



5 第1年度の研究成果及び課題

事例【職場体験学習】の生徒感想

< 道徳の時間「ナイト・カストーディアルに学ぶ」 >

いやな事でも、進んで取り組むことが大切だという事が分かった。職場体験でも進んで取り組んでがんばろうと思いました。

これからある職場体験に向けて、プロ意識というものを、どのようなものか、感じながら仕事をしたらいいと思いました。

< 職場体験学習後 >

「あいさつのできない奴は社会に出ても役に立たん！」と言われて、そのとおりだと思いました。これからは、しっかりあいさつをしようと思いました。

今回の職場体験で仕事の厳しさと感謝の気持ちを学びました。そして、仕事をした後の気持ち良さを感じたことは、自分の将来に明るいものを見たように思った。

評価項目の検証

体験活動を生かした心に響く道徳教育の充実

年間計画に基づいて計画的に道徳教育ができたか。	100%	(学校評価アンケートより)
生徒が自己存在感をもつことができたか。	78%	(生徒アンケートより)
生徒一人ひとりの活躍の場が設定されたか。	70%	(生徒アンケートより)
道徳の時間と連動する活動になったか。	100%	(学校評価アンケートより)

成果

8割近くの生徒が体験活動を生かした道徳教育の実践を、「個々の活躍の場が保障された自己肯定感を感じるものであった。」と答えている。体験活動の前に行う「道徳の時間」は、体験学習に対する価値づけと意欲づけを行うことができ、活動を充実したものにした。一方、体験学習の後に行った「道徳の時間」では、体験活動で揺さぶられた道徳性を補充・深化し、道徳的価値の自覚を図ることができた。

また、こうした一連の取組の中で、授業者自身の道徳の時間に対する意欲も次第に喚起され、導入に毎回工夫を入れるなど指導法における積極的な工夫が見られるようになっていった。

課題

体験活動を生かした道徳教育の充実が図れるように、他の教科・領域等の連携を密にする。年間指導計画を見直し、体験活動を生かした道徳教育が充実するように資料の精選を図る。生徒・学校実態にあった「道徳の時間」の1人1自主教材づくりをめざす。

「生徒の心」をつかむためにも、積極的生徒指導の研修を深め、指導法の工夫・改善を図る。学校教育全体としての道徳教育の在り方の具体的な検証と取組を行う。

研究推進体制の更なる改善を行う。

第1年度に成果があった取組を継続して行う。

6 参照できるホームページアドレス

三原市立第三中学校公式ホームページ：<http://www.mihara.ed.jp/~dai3-jh/>